

はじめに

本書は、これからの入試で求められる「思考力・判断力・表現力」の確固とした土台作りをねらいとした問題構成となっています。「思考力・判断力」を十分に発揮するためには、その基礎となる知識が必要です。その知識の土台作りに役立つ基本テキストは、やはり教科書であり、入試対策の第一歩は教科書の理解です。教科書の内容を十分に理解するためには、問題演習が欠かせません。本書は、その確かな土台作りを、効果的・効率的に行えるように編まれています。

現代社会は、大きく分けて、4つの分野で構成されています。(1)現代社会の課題と特質。この分野は、地球環境問題・資源エネルギー問題、科学技術の発達と生命の項目からなる「現代社会の諸問題」と、青年期と適応、哲学と宗教、伝統と文化などからなる「現代社会と人間」で構成されています。(2)日本国憲法と民主政治。この分野は国際政治以外の「政治分野」で構成されています。(3)現代の経済と国民福祉。この分野は、国際経済以外の「経済分野」と、労働問題や社会保障問題からなる「国民福祉」分野で構成されています。(4)国際社会と人類の課題。この分野は国際経済・国際政治などの「国際分野」で構成されています。

本書は、過去のセンター試験の問題を、この4つの分野に分け、そこから良問を選択して、**step 1**にはそれぞれの分野の基本事項を確認するための問題を、**step 2**には総合的な問題を配置しています(問題・選択肢の一部に手直ししたものがああります)。

本書は次のような手順で利用すると、効果的・効率的な土台作りができると思います。

第一に、教科書あるいはそれに類する参考書を使って、基本事項の習得を図りましょう。

第二に、その知識を土台に、本書を利用して、問題を解きながら、学習してきた知識の習得の度合いを確認するとともに、基礎力・応用力を磨いていきましょう。その際、正解が導き出せるということだけでなく、その他の選択肢に関しても、解説を参考にして知識を広げる材料として利用するという学習姿勢が大切です。

第三に、もう一度、教科書に立ち戻って、周辺的な知識を含めて再確認を行いましょう。この演習⇒再確認という作業の繰り返しが確実な知識習得の近道です。

本書を有効に利用し、目標とする得点をあげられることを祈念しています。

目次

第1章 現代社会の課題と特質

第1節 地球環境問題・人口問題・食糧問題	8
step 1	
1-1 地球環境問題	8
1-2 資源エネルギー問題・人口問題・食糧問題	9
step 2 地球環境問題・人口問題	10
第2節 科学技術の発達・伝統と文化	12
step 1	
2-1 科学技術の発達と生命	12
2-2 伝統と文化	13
step 2	
1 世界遺産・宗教・科学の発達	14
2 伝統と文化	17
第3節 大衆社会・情報社会	20
step 1	
3-1 大衆社会	20
3-2 情報社会	21
step 2 大衆社会の特質	22
第4節 青年期とその課題	25
step 1	25
step 2 情報通信技術の発展と現代の青年	27

第2章 日本国憲法と民主政治

第1節 民主主義と統治の仕組み	30
step 1	
1-1 民主主義の基本原則	30
1-2 各国の政治体制	31
step 2	
1 現代民主主義の諸問題	32
2 民主主義と統治の仕組み	34
第2節 日本国憲法の基本原理	37
step 1	37
step 2 日本国憲法下の民主政治と法の支配	38
第3節 平和主義と安全保障政策	41
step 1	41
step 2 日本の安全保障と国際貢献	42
第4節 基本的人権の尊重	45
step 1	45
step 2	
1 人権保障の発展	46
2 人権の国際的保障	50
第5節 国会と内閣・行政の民主化	52
step 1	52
step 2 国会の仕組みと国民の政治参加	53
第6節 裁判所	56
step 1	56
step 2	
1 被告人・被疑者の権利と日本の司法制度	57
2 日本の司法制度	59

第7節 地方自治	62
step 1	62
step 2	日本の地域社会と地方自治 63
第8節 選挙と政党・世論・圧力団体と大衆運動	66
step 1	66
step 2	① 日本政治の動向 68, ② 現代日本の政治過程 70

第3章 現代経済と国民福祉

第1節 経済体制と経済学説	74
step 1	①-1 技術の発展と経済社会 74, ①-2 大きな政府と小さな政府 75, ①-3 社会主義の変容 76, ①-4 経済学説 76
step 2	社会主義の変容 78
第2節 企業と市場	80
step 1	②-1 企業 80, ②-2 市場 83
step 2	市場経済と政府の介入 84
第3節 財政と金融	87
step 1	③-1 財政 87, ③-2 金融 87, ③-3 財政・金融政策 89
step 2	財政 90
第4節 国民所得と産業構造	93
step 1	④-1 国民所得 93, ④-2 産業構造 95, ④-3 景気変動と物価 96
step 2	経済成長と景気循環 97
第5節 日本経済の発展	101
step 1	⑤-1 高度経済成長期 101, ⑤-2 ブラザ合意とバブル経済 102
step 2	ブラザ合意以降の日本経済の動向 104
第6節 中小企業・農業問題	107
step 1	⑥-1 中小企業問題 107, ⑥-2 農業問題 107, ⑥-3 農産物問題 108
step 2	日本の食生活と農林水産業をめぐる諸問題 110
第7節 国民生活の諸問題(1) 消費者問題, 公害問題, 都市問題	113
step 1	⑦-1 消費者問題 113, ⑦-2 公害問題 113, ⑦-3 都市問題 115
step 2	食と環境 116
第8節 国民生活の諸問題(2) 労働問題, 社会保障問題	119
step 1	⑧-1 労働問題 119, ⑧-2 社会保障問題 121
step 2	日本の高齢化の進展と社会保障制度 124

第4章 国際社会と人類の課題

第1節 国民経済の仕組みと動向	128
step 1	1-1 国際経済の仕組み 128, 1-2 国際経済の動向 129
step 2	国際貿易と日本経済 131
第2節 国際経済の諸問題	134
step 1	2-1 南北問題 134, 2-2 グローバル化の進展と地域的経済統合 136
step 2	1 子どもの貧困問題 137 2 経済のグローバル化と地域的経済統合 140
第3節 国際社会の成立と国際平和組織	142
step 1	3-1 国際社会の成立 142, 3-2 国連憲章と安全保障問題 143
step 2	国際社会の諸問題 146
第4節 戦後国際政治の動向	148
step 1	4-1 地域・民族紛争 148, 4-2 冷戦とその終焉 148, 4-3 軍縮への取組み 149, 4-4 国際平和と国際協力 150
step 2	国際紛争と軍縮の動向 151

第2節 科学技術の発達・伝統と文化

step 1

2-1 科学技術の発達と生命

問1 人間と自然との関わり方についてはこれまでもさまざまな立場から警告が発せられてきた。それらに関する記述として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① アメリカの生物学者カーソンは、「沈黙の春」という著作のなかで、DDTなどの農薬の使用が、生体濃縮によって生態系を崩していく危険性を持っていると警告し、環境問題の重大性を人々に認識させるうえで、大きな役割を果たした。
- ② ローマクラブは、「成長の限界」という報告書のなかで、人口増加と経済成長が今後も続いた場合、資源の有限性や環境の悪化によって破壊的な結果をもたらされると警告し、人口増加・経済成長を減速させることが必要であると主張した。
- ③ 国連の報告書は、大規模な核戦争が発生した場合、核爆発によって放出される塵が太陽光線を遮ることによって、「核の冬」と呼ばれる大幅な気温低下が地球的な規模で起こり、それに伴って食糧不足が深刻化する危険性を指摘した。
- ④ アメリカの経済学者ボールディングは、地球環境は宇宙のなかで閉ざされた世界であり、人間が利用できる資源には限界があるので、人類は「宇宙船地球号」の乗組員だとの認識を持って、地球外資源の利用を積極的に目指すべきだと指摘した。

問2 科学技術と社会のあり方について述べたものとして正しいものはどれか。次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 遺伝子の組み換え実験は、生態系を広範囲に破壊する危険性がきわめて高いので、国際条約によって全面的に禁止されている。
- ② 日本の法律は、自然環境に影響を与える危険のある生物実験を行う場合、環境アセスメントを実施するよう定めている。
- ③ 生命に関する技術を応用して、人間の役に立つという観点から人工的に創造された自然環境をアメニティと呼んでいる。
- ④ 生物毒素兵器(細菌兵器)の開発や製造ばかりでなく、化学兵器の開発や製造についても、それを禁止する国際条約が採択されている。